

## 千葉県館山市沖ノ島遺跡にみられるイベント堆積物(予報)

## Event deposits in the Okinoshima Jomon Site, Chiba Prefecture, central Japan

# 岡崎 浩子 [1]; 百原 新 [2]; 千葉大学文学部考古学研究室グループ 岡本 東三 [3]; 小林 真生子 [4]; 清永 丈太 [5]; 林 成多 [6]

# Hiroko Okazaki[1]; Arata Momohara[2]; Tozo Okamoto Chiba university archeological department[3]; Makiko Kobayashi[4]; Jota Kiyonaga[5]; Masakazu Hayashi[6]

[1] 千葉中央博・地学; [2] 千葉大・園芸; [3] -; [4] 千葉大・園芸; [5] 東京都建設局; [6] なし

[1] Earth Science, Nat. His. & Inst., Chiba; [2] Horticulture, Chiba Univ; [3] -; [4] Horticulture, Chiba.Univ.; [5] Bureau Const., Tokyo Metrop. Govern.; [6] none

千葉県館山市沖ノ島の東岸の汀線付近には、土器や石器、イルカの骨を包含する泥質層が比較的広く分布し、これらの遺物は縄文時代早期に比定されている(千葉大学文学部考古学研究室, 2004)。この遺物包含層の上部は砂層で覆われ、特異な層相を呈している。調査地点の層相は、大きく下位からⅠ, Ⅱ, Ⅲの3つのユニットに分けられる。ユニットⅠは塊状黄褐色~青緑色シルト層(層厚約20-80cm)で、ユニットⅡはユニットⅠから漸移する黒褐色シルト層(約30-60cm)である。このシルト層は有機質で軽石(径1cm程度)、材、イルカの骨や土器、石器などが散在する遺物包含層でもある(千葉大学文学部考古学研究室, 2004の9層)。ユニットⅢは下位のユニットにアバットする中粒~粗粒砂層(約20-120cm)で、低角なトラフ型もしくはスウェール状斜交層理、逆級化層理がみられる。しばしば厚さ約1-5cmのシルト層を挟み、いくつかのサブユニットに分けられる。このユニット下部の砂層と泥層が互層する部分にはタブの葉やヤブツバキ種子、材小片など植物化石が多く含まれる。常緑広葉樹林に分布する木本類が多いが、ヒルムシロ属などの水生植物も含まれる。ユニットⅠ, Ⅱの泥層は沼などの閉鎖域の堆積物と考えられ、ユニットⅢの砂層はそこに洪水や台風時の大波、津波などのような比較的高エネルギーな水の流れによって運ばれたものと考えられる。また、ユニットⅡの下部と上部に含まれる植物化石のAMS年代はそれぞれ7,830-7,640 cal yrsBC, 7,750-7,600 cal yrsBCで、土器などの示す時代と一致する。この地域の沖積層は今まで縄文海進期の溺れ谷層の研究が主に進められていたが、調査地点の年代はそれらよりもやや古くまた陸成層を主体とし、古気候、古地震などの復元に重要な情報を与えると考えられる。この層相解析は考古、化石調査とあわせて総合的におこなわれており、本報告はこの予報である。

## 文献

千葉大学文学部考古学研究室(2004)千葉県館山市沖ノ島遺跡第一次発掘調査概報。千葉大学文学部考古学研究室